礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
高塔印刷　(☎)2987

やぐら復活は無理か

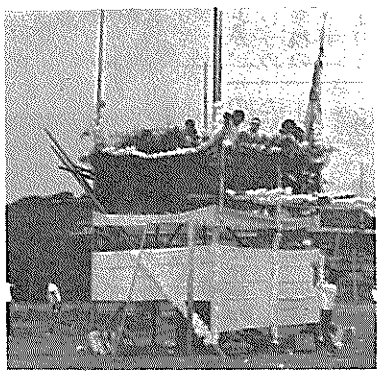
盛り上がるか体育祭
――今年度の見通し

昭和四十九年体育祭で、姿を消したやぐらは、もう復活されないのだろうか。我々生徒の間で、強く希望されてきた、このやぐらについて生徒会や先生方の意見を聞いてみた。

年々、生徒会執行部の活動は活発になってきている。中でも昨年の活動には、めざましいものがあった。

しかし、四十九年度体育祭で姿を消したやぐらは、一昨年、昨年と、生徒会執行部を通じて、生徒の間から復活を強く要求されてきたが、結局実現されなかった。

全学年を通してやぐらは未経験であるが、体育祭を盛り上げるために特に三年生などは、やぐら復活を強く要望している。



旧やぐら

まずここで、今年度の体育祭の盛り上がりの見通しから考えてみよう。

昨年、生徒会執行部が、体育祭の実施についてアンケートをとった結果、実施希望派と中間派は半々であったそうだ。

このようなアンケートの結果からでは、今年度も昨年度と同じような反応しか期待できないのではないだろうか。

これは、生徒の体育祭に対するやる気のなさを示しているものであり、また、ここ二、三年来の体育祭のシラケ、マンネリ化ムードがもたらしたものであるともいえるであろう。

ここで体育祭の内容についてもう少しつっこんでみよう。

たとえば、若高体育祭の名物である山車は、年々縮少の傾向にある。

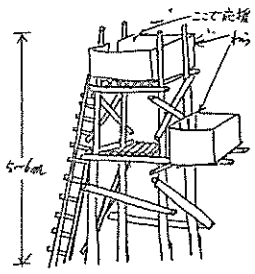
これは、材料である竹材の品質や作製期間の問題がからみさらには、予算の関係によるものである。

次に、やぐらの復活についてだが、昨年度の体育祭前に、三年生が、代議員会を通して、執行部に強く要求をした。しかし、いろいろな問題をかかえたやぐらの復活は実現されなかった。その問題の中で、たしかに「原案にない」などというような、執行部の中での問題もあったが、何よりも昨年度やぐら復活を実現不可能にしたものは、執行部ではなく、やぐらを知らないという生徒たちであった。四十九年度でやぐらが廃止された原因として、その年事故があったためと聞いている。生徒の不注意か、資材の品質が悪かったためか、組立作業の不徹底さであろうが、いずれにせよやぐらに危険性があったのであろう。それでは、少しでも危険性のないやぐらはできないものであろうか？

本当にやぐらを作りたいのなら、これらの条件を満たしたやぐらの復活要求はできないのだろうか。

解説　やぐらとは

やぐらとは、応援団員や一般生徒が、やぐらの上にあがって応援するために、使用された。やぐらは、各学年に一個づつ設けられていて、各学年が、体育祭に投じる意気込みを表わしており、また、各学年のシンボルでもあった。



構造は、図に示している通りで器材は木材が主体で、他に竹ややらを材料にして、造られた。

高さは、約五～六メートルぐらいあったらしく、その横に、学年旗が立てられていた。

このやぐらは、若高だけではなく、北九州市内の各高校でも、各学校特有の型を持ち、体育祭を色どっていた。今では、市内で見ることはできないだろう。

若高のやぐらは、とても立派なものであった。若高名物の山車と同時に、体育祭を力づよく盛りあげていたものにちがいない。

体育係先生に聞く
過去と可能性

これらの問題について、体育科の先生と旧生徒会長にインタビューしてみた。

Q、山車拡大のため作制早期開始はできないか？

A、昨年は、一週間前から五、六時間目までだった。ここで生徒達に反省してもらいたいことは、こんな風に時間をとってやっているにもかかわらず、夜中に学校へやってきて、時をわきまえずに騒ぎ隣近所に迷惑をかけていることです。

Q、しかし、山車拡大によって、また体育祭が盛り上がると思うのだが…？

A、前に言ったことを反省して、毎年これを参考にしながら準備委員会をつくって、そこで案をねって、そしてそれを実行委員会に出して実行していく。だから企画をする段階でそれがないから、そういう方向にもっていけないんだと思う。

Q、しかし、山車拡大のため作制早期開始はできないか？

A、前のような理由からやることはむずかしい。これはまた準備委員会の時、強張したいと思う。

Q、生徒側から新しい物をやるという提案があればやるか？

A、それは十分考えられると思う。しかしそれには、①安全であること。②やっていく段階で可能であること。③あまり費用がかからない…などのような条件を満たす物でないと通らないと思う。

Q、昨年、三年生から「応援ステージ」というやぐらに代わる物の案が出されたのに通らなかった理由は？

A、これもやはりやぐらに付随した作り方だった。しかしこちらは違う発想、アイデアを要求した。今までの物から脱皮した全く新しい物を作ろうという考え方をもってほしい。

Q、もうこの先、やぐらはできる可能性はないか？

A、前のような理由からやることはむずかしい。これはまた準備委員会の時、強張したいと思う。

Q、生徒側から新しい物をやるという提案があればやるか？

A、それは十分考えられると思う。しかしそれには、①安全であること。②やっていく段階で可能であること。③あまり費用がかからない…などのような条件を満たす物でないと通らないと思う。

Q、昨年、三年生から「応援ステージ」というやぐらに代わる物の案が出されたのに通らなかった理由は？

A、これもやはりやぐらに付随した作り方だった。しかしこちらは違う発想、アイデアを要求した。今までの物から脱皮した全く新しい物を作ろうという考え方をもってほしい。

次の若高名物はないか
生徒でアイデア運動を

新聞部としては、今回、体育祭直前にこういった問題を提起して、結局計画していなかったなどという理由で終わってしまった例年の反省の意味もこめて、まだ計画の固まっていない段階でこれらの問題を全校の生徒諸君に提案してみた。ここで諸君に一番考えてもらいたいことは、体育祭はいったい誰がするかということである。卒業生の中には、自分たちの体育祭を自分たちにとって楽しい物、思い出に残る物にしようとそれなりの努力をたくさんしてきていたという。

ところが、現在の体育祭において、その努力が少ないために盛り上がりの少いものになってきた、と同時にそれに対する考え方も、〝自分たちの体育祭〟というものから遠ざかったものになってきている。

インタビューの中で、「廃止された理由が理由でなくならなくはならない。」又、「今までの物を思い出にしようとする考え方を改めて、自分たちで全く新しい物を作ろうという考え方をもってほしい。」などのような意見も聞かれた。

高校生の年代は、まだ大人とはいえないが決して子供でもない。言いかえれば大人よりも大きな行動力と子供よりはるかに確かな自覚を持つ人生の時期にある若者である。それが他人の意見に押し流されてほとんど受け身の状態で良いものだろうか。諸君達とこの若さによって、障害となる多くの条件を満たした〝自分達の物〟をどうか手に入れていきたいものだ。

行事予定

六・五	旺文社模試三年
六・十五	〃　一・二年
七・一～五	期末考査
七・二十	終業式
〃	進研模試三年

主張
自覚・自主性を持て

今年度に入って我校は風紀面で大きく変わってきている。一番、目に付くのは遅刻防止の為に先生方が朝下駄箱の前に立たれていることだ。その他、上履・服装などが、きびしくなった。いやこれらは当然の事である。生徒の間では、「きびしいな」という声を聞くが、この事で今まで若高生がどれほど、規則を守っていなかったかがわかる。当然守らなければいけないことを守らず、反対にこれが正当であると考えられていたような状態であった。例にとると、遅刻百回以上を軽く越す者や定刻にクラスの半数も来ていないところもあった。又体育館に集まっている時でもすぐがやがや騒ぐし、生徒会活動にしてもいつも特定の役員以外は関心を持っていない。

今度の事で、生活規律が守られていくだろうか。しかしこれでは若高生としてはだめだ。進歩がない。先生方から〝やれ〟と言われて、〝しかたがないからやる〟といった様では格好だけは整っても、内容が充実しないのだからどうしようもない。いつでも、何をするにしても、上から降りてきたことを、そのまま実行するだけで、自分から進んでする、ということのない自主性のなさ。今の若高生には「これが悪い事だ。やめなければいけない。」という気が起きないので、盗難はないのかと聞くと、「そんな事はありません。」と軽く言われた。ところが我校を見てみると、鍵をかけていてもそれをあける人がいる。同じ高校生にして、どうだろう、この違いは？何をするにも無気力、無関心。これが我校生徒の一面である。

生徒心得に〝若松高等学校の生徒であることを自覚し、常に自己を研き、自己を高めることを忘れることなく、絶えざる努力を尽すこと〟とある。自分が若高の一員である自覚を持って一段と自己を進歩させる努力をしているだろうか。努力なしで都合のいいように事を進めるのは甘い考えである。しかし努力だけすればよいという訳でもない。そこにはやはりやる気・自覚・自主性が必要だ。〝少年よ大志を抱け〟とあるがその志でも小さな事、つまり遅刻など一般生活の中でけじめをつけるべきところをつければ、その努力が実るものである。

のか。いや、起きたとしても、自分だけが守っていればいいと考えているのではないか。その様な自覚心しか、持っていない様では情けない。

話しは少し変わるが、僕が友人の学校に遊びに行った時のことであるが、その学校では下駄箱は、鍵どころか戸もない。そこには靴それに参考書も置いている人があった。そこで、盗難はないのかと聞くと、「そんな事はありません。」と軽く言われた。ところが我校を見てみると、鍵をかけていてもそれをあける人がいる。同じ高校生にして、どうだろう、この違いは？何をするにも無気力、無関心。これが我校生徒の一面である。

生徒心得に〝若松高等学校の生徒であることを自覚し、常に自己を研き、自己を高めることを忘れることなく、絶えざる努力を尽すこと〟とある。自分が若高の一員である自覚を持って一段と自己を進歩させる努力をしているだろうか。努力なしで都合のいいように事を進めるのは甘い考えである。しかし努力だけすればよいという訳でもない。そこにはやはりやる気・自覚・自主性が必要だ。〝少年よ大志を抱け〟とあるがその志でも小さな事、つまり遅刻など一般生活の中でけじめをつけるべきところをつければ、その努力が実るものである。

礫陵言

このところ大学の山岳部や社会人の山岳会では新入会員が少なくて頭を痛めているとか。その原因はどうやら最近の若者の風潮である「鍛えしごかれるより個人で気楽に登山したい」というところにあるらしい。

そこで、山岳雑誌や新聞の案内欄で「会員募集」の呼びかけをしているが、効果はさっぱりだそうだ。

その一方では、ワンダーフォーゲル、バックパッキング、オリエンテーリングなど野山を気軽に歩こうというのは全国的ブームとなっているというのに。本格的な登山活動はどうも敬遠される傾向にあるようだ。

若者は何故つらいこと、苦しい困難なことを避けて出来るだけ安易な道をとろうとするのか？厳しい鍛練を通じてこそ根性も養われ集団の中での協調性を育まれ、いかなる局面に遭遇しても挫けない、より立派な人間へと成長していくのではあるまいか。

プトレマイオス1世の尋問にこたえてエウクレイデスは「幾何学に王道なし」と暗に学問の厳しさを論したという話しはよく知られているが、学問があまり平易であったら、苦しみも少ないが、楽しみもまた少ないであろう。難問と取り組んで解いた時のあの楽しみは何ものにも替え難いものがある。難問を解く喜び、未知の世界を知る喜び、この喜びこそは学問をする人だけに与えられた喜びである。この喜びを会得するならば、学問の仕方は自分で発見するであろう。

若者諸君よ、精々身体を鍛えて、勉学に励みなさい。「偉人の達した高峰は一躍地上から達したものではなく、同伴者が、夜眠れる間に刻苦して一歩一歩よじ上ったものである。」(ブラウニング)

抱負に燃えて

52年度前期執行部スタート

去る四月三十日（土）昭和五十二年度新執行部立ち会い演説ならびに選挙が行なわれた。

即日開票の結果、会長に松野博行君（二年六組）、副会長に宮原孝之君（二年四組）・福山孝男君（一年六組）書記に野美山美幸さん（二年五組）・黒坪守君（二年八組）会計に小田英樹君（二年一組）・田中喜和子さん（一年一組）が当選という結果になった。

多難な選挙

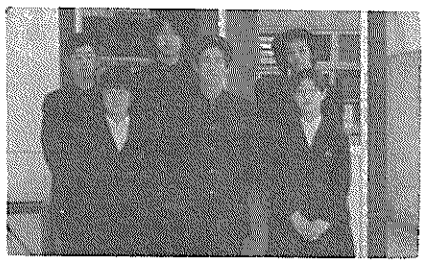
競争の中から選ばれた七人に、これからの若高の難問に立ち向かうに当たり、各々抱負を述べてもらった。

―会長―

決まりについて。

決まりにも色々ありますが、例えば集会時の決まりとして私語をしないとか、すばやく整列するというのがあります。また、学校の校則もきまりの一つです。そこで、これらのきまりを守らない人はなぜ守らないのかを、考えてみました。

僕も完全には守らない人のうちの一人ですので自分の場合で考えてみます。決まりを守るということを、いい子ちゃんになる事のように考えているのではないかと思います。僕の場合、決まりを守ると「あの人は先生にコビうって平常点がよくなるようにしよるんやないか」など言われるので決まりをあえて破っているようです。みなさんはどうでしょうか。



執行部の面々

―副会長―

福山孝男君

いまさらのことながら、非常にだいそれたことをしたと思っています。しかし皆さんに投票してもらって当選したのですから、自分なりに頑張りたいと思います。

宮原孝之君

クラブとの両立は非常に難しいですけれど、副会長の任務をできるだけ果たしたいと思います。

―書記―

黒坪　守君

今度、僕が書記という任事につかなければ、ならなくなりました。

別に、これという事をしようとは、考えていませんが、なったからには、出来る限りのことを、やろうと思っています。

野美山美幸さん

私が書記という仕事を引き受けることに、なったからには、がんばる、という公約どおり、がんばりたいと思います。

―会計―

小田英樹君

僕は、生徒会活動の、内容は全くわからないが、なった以上、自分のベストをつくします。

田中喜和子さん

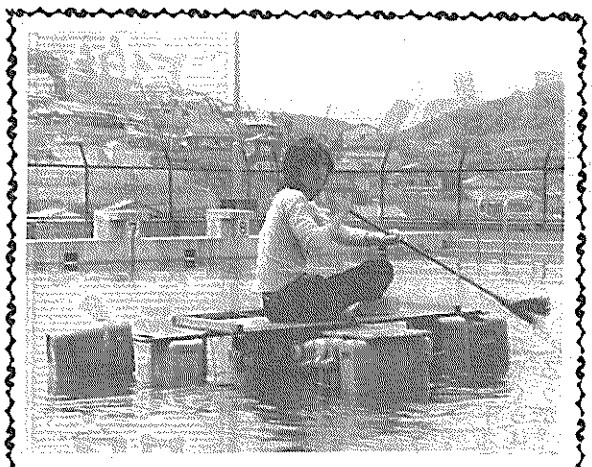
私は、会計の仕事など全々知らなかったので、どんなものかと思ってなったけれども、やれるだけがんばります。皆さん、よろしくお願いします。

以上のように、新執行部松野君を筆頭に、これからの若高への抱負を述べてもらったわけである。

我々は、今の生徒会に対し、あまりにも無関心すぎるのではないだろうか。何に対しても会長まかせになってしまったようである。

生徒全員が生徒会に関心をもち積極的な意欲で、若高生徒会とともに活動していけば、若高生の進歩も学校の発展も生まれよりよい若高を築きあげられるのではないだろうか。

抱負に燃えて羽ばたく新執行部を我々も、協力をして、共に羽ばたいていこう。



カメラアイ

のどかな小春日和の中、波静かなプールに浮かぶおかしな生き物!?

その上でまたおかしな人間様が、必死で水をかいてもがく姿が見える。

これはかの水泳部が苦心のあげくあみ出した大傑作、自称〝いかだ〟石油罐とイスのシートを組み合わせ、針金でぐるぐる巻きにしたところが何ともユニーク。三ケ月前迄に誕生し、毎日の様に人間様を背に乗せ、プールを優雅に遊覧している。ぷかぷかゆらゆらと、何とも危げない。一担、まん中までこぎ出したのはいいが、戻るまでが又一苦労。今までに三人もの若き勇者に快適な水浴びを楽しませてくれたしろもの。

はい○御苦労さま

何のための大学か？

■今年の進学状況■

現在の社会では、大学問題が大きな範囲をしめてきたと言えよう。

それに、五十三年度から実施される、国立大学一本化、共通テストと、来年は今年にも劣らないほどの、いや、戦後最大の激しい受験戦争となりそうなのである。

では、前おきが長くなったが、ここで卒業生の進学状況を列記してみることにしよう。

	現・浪
国立一期	
東京芸大	1
九州芸大	1
岡山大	1
長崎大	6
宮崎大	4
熊本大	2
高知大	1
琉球大	1
計	17
国立二期	
山口大	3
九工大	5
福教大	5
佐賀大	2
大分大	2
計	17
公立大学	
北九大	19
福女大	1
計	20
国立準大	
職業訓練大	1
計	1
私立大学	現・浪 162
短期大学（公立）	8
短期大学（私立）	72
計	80
各種学校	42

以上が、今年の現役・浪人生を合計した、国・公立大学の進学状況である。資料不足の為、私立大学の合格者（特に、私立大学に限っては、浪人が合格しても連絡しないことがあるので）は、列記できなかったが、一応ここに、国・公立大学以外の大学等の合格者数を発表しておこう。

あくまで、この数字は概数であるから、注意して読んでもらいたい。

今年は昨年に比べると、現役の成績の良さが目立つのである。国立大学だけで、昨年の現役に比べて今年の現役は六名増の合格者を出している。また、公立大学では四名増し、私立大学ではなんと二十名以上、増しているという好成績を示している。来年もこの調子で、もっと合格者を増やしたいものである。

進学指導の先生に、直接総評を伺がったわけではないが、ある先生は、「これは毎年言えることだが、受験勉強のとりかかりが遅いということが原因だと思う。受験数ケ月前にあわててやっても駄目だ。やはり、教科書中心で、毎日欠かさず予習・復習をすればそれが受験勉強にも繋がり、大学にも必ず合格できると思う。」と述べられた。

入試に直接関係のある三年生だけでなく、一・二年生もこれを機会に、なんのための大学か、じっくり考えてみる必要があるのではないだろうか。

新案が成功

遠足より充実へ

恒例の「一年生歓迎遠足」が予定より二週間遅れた、五月九日、五月晴れの中、無事行なわれた。コースはもちろん〝石峯山経由高塔山行き〟である。

九時十分に予定通り、三年生に続いて二年生が、そして最後に十分遅れて、一年生が出発した。

今年は、マンネリ化を打破しようとの目的か、音楽堂での吹奏楽部演奏と、広場でのフォークダンスの二つが催された。フォークダンスは毎年行っていたが結局は、ダラダラと円を歩き回るだけで終わってしまった。それに比べ今回は、自由参加の形式がとられ、参加人数が心配されていたにもかかわらず、小さな輪から大きな輪へと広がり、より充実した、なかなかの出来ばえであったといえよう。

まあ、ピンクのスモックに、ピンクの帽子といういでたちの、どこそこの幼稚園の先生方が、やたらと目立っていたような気もするのだが……

ちなみに、彼女等を目的に、輪の中へ入った男の先生もいるそうな。

また、天真爛漫な幼稚園の子供さんを、三年生のT氏とM氏が奪いあう場面もあり、死闘の末、T氏がレディを獲得し、一躍注目の的となった。フォークダンスは一時から二時まで行われ、感想を聞くためマイクを向けてみると「男性が少なかった。」という声が圧倒的に多かった。（中には○先生がまわってくる前に、男性側に移った女性徒もいたそうだが……）

とにかく、今年の遠足は前年より出席、内容共々、非常に充実したものであったようだ。

一年、二年生の諸君は、来年はより一層、この遠足を盛り上がらせ、意義あるものに、そして三年生の皆さんは、来年の遠足は、できればぜひ、避けてほしいものである。

先生宅訪問

先生になった理由は？

適性を考えて

理科　井土先生

今回の先生宅訪問は、五月の雨の中、井土先生宅を訪問した。

今日は、子供の日、子供であり大人であるような我々八名は、たった一枚の小さな紙にかかれた地図を頼りに、海老津駅より二十分田んぼに囲まれた大きな家を発見それがなんと井土先生のお宅であった。

大邸宅に驚きながらも、質問を始めてみた。

―出身校は。

東筑高校から、福岡教育大学を卒業し、教員となる。

―学生時代の思い出は。

大学の教官が、勉強の面で、やりたいことを自由にかつ、全てさせてくれたこと。

―何か、スポーツをやっていましたか。

大学時代に、柔道をやっていただけ。

―先生になられた動機は。

適性を考えて。

―先生になられて何年目ですか。

十一年目です。

―先生になられて、よかったことは。

生徒各自が、自分を大切にしているのを見る時。

―いやだったことは。

よかった時の逆の時。

―好きな言葉は。

堅忍不抜。

―モットーは。

自分自身を大切にすること。

―趣味はありますか。

生徒と、話しをしたり、遊ぶこと。

―奥様とのなれそめについて。

想像にまかせる。

―奥様から見て先生は。

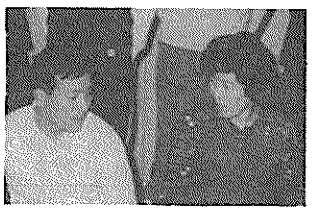
模範亭主です。

―子供さんは何人ですか。

三人。七才、五才、二才で男、女、女の順。

―高校生の男女交際についてどう思われますか。

悪いとは思わない。



みつめあうふちゃり

―飲酒・喫煙は。

カッコよさだけを売りものにしている。

―最後に若高生に何か。

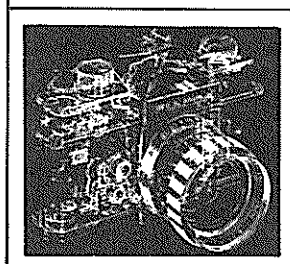
自分をもっと大切にして欲しい。

権利を要求する前に、義務を果たせ。

以上のように、質問は終わった。

その後、昼食をとりながら、いろいろな話しをし、楽しく遊んでもらってるうちに、早くも五時間が過ぎてしまった。そろそろ記念写真を取ろうというところで、一騒動ありながらも、無事撮影を終えて、帰路についた。

最後に、井土先生、我々八名が押しかけ大変御迷惑をおかけしました。



カメラ＆8ミリ

アサヒ・フォト・ラボ

若松区本町三丁目6－14

TEL. 751－0751

あなたに愛される
メガネを作ります

メガネ・コンタクトレンズ

アイチ眼鏡店

若松区本町三丁目8-24

TEL（761）3312

ジーンズ ＆ 学生ズボン

ジーンズ・ショップ ワキタ

明治町銀天街　本店(771)2485　支店(771)6247

可愛いさが足りんゾー

新入生へインタビュー

新入生も少しずつ校風に慣れ、全学年とも学校生活に軌道を乗せて来たようだ。そこで、我々新聞部は新一年にインタビューしてみた。

Q若高に来た理由は？
—一番近かったから。
—頭が悪かったから。（おそれ入りました）
—男女共学だから。
—前からの夢だった。（ウレシイ）

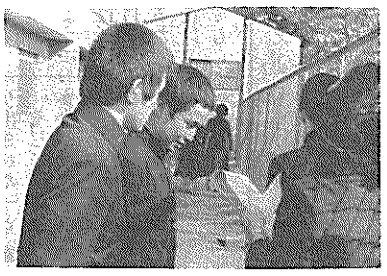
Q若高への理想は？
—清く正しく美しく。
—校舎ボロボロ。
—国立大合格率80%をキープ！

Q入学してみてどうでしたか？
—緑がいっぱい。
—きびしすぎる。
—いやだなァ～。
—変な男しかいない。

Q若高の雰囲気は？
—ねったりとしたもやの中みたい。（どうして）
—けじめがない。
—さわがしい悪くはない。
—先生が強い。（セーカイ）

Q上級生に対しては？
—感じわるい。
—変な顔がそろっている。
—もう少しカッコよく。
—女番長みたいでイヤ。

Q先生に対しては？
—若高をよくするために一生懸命という感じ。
—冷たい、きびしすぎる。
—授業の説明をわかりやすく。（ごもっとも）
—若くて男らしい先生がほしい。（若高の弱味）
—若はげがステキ。
—お年寄りが多い。


あどけなさが少し

Q風紀面については？
—悪い奴は極端に悪い。
—みだれている。
—髪型が自由だからよい。
—きびしすぎるんでは。
—せこい事で注意される。

Q生徒会活動について？
—よくわからない。
—今見たかぎりでは何してるかわからない。
—活発でない。
—何かしているの？

Q食堂については？
—戦場だ。
—このままでいい。
—食券は一時間目から売ってほしい。
—おいしくない。
—みんないやしい。
—値段を下げてほしい。

Q男女交際について？
—もっとオープンに。
—自由だと思う。
—大いに結構。
—大賛成。（アセッテルナ君は）
—盛んでない。（エッ？）

Q友達とどんな話をする？
—男と女の違いやムフフについて。（恐怖）
—教えられん、男に関するetc…想像にまかせる。（すごいなァ）
—TVの内容、クラブの事、一般的な話etc。

Q何が一番楽しみ？
—文化祭の未知の期待。
—修学旅行。
—試験。（ナヌ）
—体育祭。
—クラブ活動。

Q若高でやってみたいことは？
—男生徒と毎日デートする。（ムムム）
—ずる休み。
—BOYハント。

質問も間に合わせで色々と考えてみましたが、しかし新入生はすごいですネ。最後に一年生に「可愛いさが足りんゾ～」

文化部案内

一年生諸君、君たちは我若高にどのような文化クラブがあり、どんな活動をしているか知っているだろうか。文化部は、運動部のように派出な存在でないためその多くを知らない人が大部分であろう。そういう新入生諸君のために、ここで若高文化部を紹介することにしよう。

★書道部
書くことは苦しいが、出来上がりのうれしさは最高である。

★美術部
地道に仕上げていく作品の出来上がりは〝あー実感〟そのもの。
一年生募集中です。

★生物部
愉快な研究、実験をやっている。
男子部員募集。

★人形劇部
男女一年が是非ほしい。
公演旅行や老人ホーム、幼稚園訪問もある。

★歴史部
男子新入部員、大歓迎。
夏期遠征で友情を深めあおう。

★文芸部
一年生と共に詩を創っていきたい。

★新聞部
他の部にはないユーモアがあるから…。
新聞部バンザイ!!

★英会話部
秀才ばかりのため、お互いの学力アップ確実。

★吹奏学部
御協力お願いします。

★音楽部
楽しい楽しい音楽部。

★地理部
美男がもっと入部してほしい。

★写真部
先輩後輩の区別なく、楽しく写真をとっている。

★化学部
安全第一、楽しい実験。
この他、

★物理

★インターアクト

★華道

★箏曲
など大躍進中である。
一年生で、まだクラブに入っていない人達、文化部で、限りない才能をのばし、放課後の思い出を残してほしい…。

文化部代表　新聞部

生徒会へ活気いまひとつ

生徒大会

去る四月三十日(土)、生徒大会が行なわれた。

十一時四十分から始まる予定だったが皆の集まる状態が悪かったため、少し遅れて始まった。

まず、昨年度の決算報告続いて、本年度の予算報告が行なわれた。皆にとっては興味の無い議題なのか、質問も、回収された〝礫陵〟の代金のことについて出ただけで、決算や予算の事については出なかった。自分たちの払う生徒会費がどう使われるのか興味がないのだろうか。

決算、予算報告は十分ほどで終わり、次に、生徒会役員立候補者の立会演説会が行なわれた。

今回の立候補者数は、二十一人で前回よりやや少ないようだ。

まず始めに、会計から行なわれた。立候補者、応援演説者合わせて、持ち時間三分の演説時間では、少々短かすぎるようだ。自分の意思をうまく伝えられてないようだ。

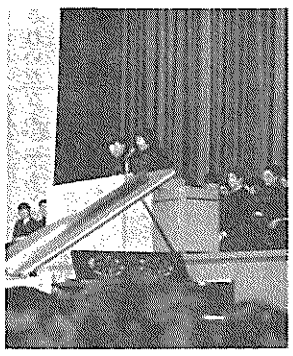
今年の立候補者は、全般的に消極的な感じであった。

そのために、今後の生徒会活動を、立派に、引っ張っていく活気が感じられなかったようだ。

「なりたくはないけれど、もし当選したら、やっていくつもりです。」とか、「僕に入れないでください。」などと言う言葉が出たのも、そのあらわれであると思う。

また、今年もまた例年通り、聞いている生徒の態度が、悪かったようだ。

ひやかしたり、退場拍手をしたり……、もっと真剣に聞いて欲しいものである。


応援演説

これでは、何のための生徒大会か、わからなくなってしまう。

最後に、生徒会役員選挙に立候補する人は、もう少し活気を持って欲しい。

推薦されたから出るのではなくて、自分の意志をもって、立候補してもらいたい。

また、立候補者だけでなく、若高全生徒も、生徒会活動に参加して、この若高をより良い学園にしていこうではないか。

最後に、生徒会への活気がいまひとつという、若高の近年の雰囲気をぜひ今年こそは、これを打破してもらいたい。そして、生徒会の役員を受け負ってくれる人たちに、どうか強い生徒会になっていってほしい。

投書

人を疑うことは

人は果たして、他人をどこまで疑うことができるのであろうか。友達への疑い、恋人への疑い、先輩や後輩への疑い、また、先生と生徒との疑い、そしてまたあるいは、両親や兄弟へも疑う時が来るかもしれない。そんな疑惑の中で、人は他人を何処まで疑い、また信頼するのであろうか。

現実に、他人を疑える限度というものは、人それぞれであるし、信頼するという事も人それぞれであろう。逆に、これらは、一人の人間として、他人と同じように、同じような限度をもっているかのようにも思えてくる。

色々な人との関係で、疑い方も、疑う限度も変わってくるであろう。両親や兄弟へ疑いが生じたとしてもそれは最も起こり難く、また、軽い気持で生じて、軽い気持ちで消えていくものではないだろうか。それに、この人々の間での信頼が、人生上一番大きいものだ（普通わからないものであるが）後で、あやまれば簡単に……。それが、できるのにできない年齢である。

次に、一番疑いが激しく、信頼と混乱して、疑いが信頼より強くなるのが恋人への疑いというものである。（これは俗に言う「やきもち」が大半を占める）しかし、簡単に後ですっきりしたものになる。

次は、意外な発し方をし、後で気まずい思いが続きやすいのが、友達への疑いである。こんな気持ちは、持ちたくなく、持たれたくもないものだ。これに出会うと、実に他人に接しにくく、道端で会うと、目をそらしたくなるようなものであろう。

友達に対して疑いを持つということは、なんだか世間が小さくなったような感じになり、一つの小さな殻に閉じこもっているような狭さを皆さんは感じたことはないだろうか。だがこの殻が破れると実に心の中が晴れ、自分がドラマの主人公に立っているような素晴しさは　この上もないだろう。

最後に、先生と生徒間について、これは、年齢の差と立場の相違から消えたり、永久に消えなかったりするものであろう。それは、義務教育を離れた時から始まる、先生と生徒の間に生じるとも言えるだろう。

人と人との間で生まれる疑い、疑惑、信頼というものの尊さ、それらは　ごく身近にあるだろう。色々な人と人との間で、他人を疑い、ある迷路に陥り、それからどれだけの信用を持って、疑いを消していくことができるか、ここで生まれる人間性と人間味それは、とても素晴しいものではないだろうか。

望まれる盗難対策

部室荒らされる

一時、減少していた盗難事件が、最近かなり頻繁に起っている。

その中でも、昨年、盗難防止のために窓に鉄格子をとりつけたばかりのプール下の部室ではそれらをまるであざ笑うかのように、再び盗難事件が起こった。

三月下旬から四月上旬にかけて、今、下駄箱でも問題になっている。かぎを切ったり、取ったりするやり方によるものだった。犯人は不明。

次は、主な被害状況……

▼ハンドボール部
ジャッジ(上)……二枚、(下)……三枚、ウインドブレーカー……二つ、下……一つ、練習着……二枚、防具……一式。

▼バレー部(男子)
ジャッジ(上)……三枚、(下)……三枚、バッグ……一個、靴……一足。

▼バスケット部(男子)
ジャージ……四組、シューズ……四足、ソックス、スポーツバッグ……一個。

▼サッカー部
ジャッジ(下)……三枚、ウインドブレーカー……一つ、下……一つ、トレーナー……一つ、シューズ……一足。以上である。

また、同じ部室という面で、南棟校舎二階にある写真部の部室では、生徒大会の最中に、何者かに壁にとりつけてある方のかぎをペンチでこじあけられて、写真焼きつけ機、ひきのばしレンズ、イーゼルマスクなどを盗まれている。

ちょうど昨年の今頃、同じプール下の部室で盗難事件があった。

その時、このような盗難事件の起こった理由として〝関係者以外の出入りが自由にできる〟〝管理不充分〟ということが大きな理由としてあげられた。

ところが今回は、半分〝処置なし〟といった感じである。なぜなら、学校のまわりにフェンスをはりめぐらせている現在、最大の理由となる〝かぎをかける〟ということが、盗難防止の一番大きな理由であるはずなのに、かぎを切ったり、簡単にあけられる者が出ている今の現状からでは、毎日見張っていること以外は、もうほとんど手のほどこしようがないといっても過言ではないからだ。このかぎをあけたりするやり方は、最近我校でちょっとしたブームで、盗みこそしないが他人のロッカー、下駄箱のかぎをいじくるのを趣味？とする不心得者をつくった。

こんな軽い気持ちでやっているイタズラは、フェンスも完成した今、やめてもらいたい。それに毎回〜、盗難の起こるたびに頭を悩ます学校側の今後の対策に期待したいものだ。

カップとコーヒー豆もキープできる店
珈琲紅茶専科
しらべ
若松区本町3丁目☎771-7000

オメガ・ユニバーサル特約店
宝石時計　ウシジマ
わかせんカード・商連クーポンもご利用下さい。
若松・明治町銀天街　☎(761)(771) 3709

龍そば
本町銀座　TEL(771)4320　TEL(771)4047

若高変革か!?

風紀を考えよう

今、若高は変わりつつある。それを、君達はどう受けとめているだろうか。外面的に先生方から、おしつけられているだけで、本当に自分達で風紀の乱れを改善しようとしているのだろうか。私達はもう一度、目を見開いて、学校生活の現状について、深く考えなければならない。

例えば、遅刻・目にあまる服装・喫煙・乱れた頭髪バイク通学・学校外に出るetc……と、風紀の乱れは、頻繁に目立っている。私達は、このような中で、平気で生活している。このようになったのは、何故なのだろうか。

そして、突然先生方がきびしい指導をされるようになった事を、君達はどう考えるだろうか。それに対して、色々な意見もあるだろう。我々は、ある先生にその事について、語ってもらった。「学校生活というものは、勉強するところであり、身体を鍛える所であり、より良い若者を、育成するところである。きびしい指導といっても、先生方は別に新しく、指導のための禁止事項をふやしたわけではない。当然今まで、しなくてはならなかった指導を、やろうとしてなかっただけである。今日まで、一人一人の自主性を大切にし、より良い若者として成長してくれることを望み、期待をかけておられたが、残念な事に、逆に解放感となって生徒の生活にけじめをなくすような自由の校風がつくり出された。」と、言われた。

そして、先生方もこのような、現状にいたった責任を、感じていられるのである。先生方にも責任があったのかもしれない。しかし私達が自主性というものを見失ない、乱れた生活態度をおこし、反省すべきところが、あるのではないだろうか。

しかし、そうかと言って先生方が一方的に指導されるだけでは、いっこうに前に進むことは、出来ないのではないだろうか。あれもいけない、これもいけないというのではなくて、それに対して、もっと良い、みんなが納得する方法を考えることも大切なのではないだろうか。見かけだけで、個人を判断するのはいけない事であるが人の目というものは見かけだけで、判断しがちである。私達は高校生なのであるだからと言って、自由がないということは、共鳴しがたい事である。のびのびと若者として、行動することが一番いい事である。しかし、高校生であるという、一番大切な自覚だけは、失なってはいけないのではないだろうか。今、私達にとって、何が大切かをよく自分の問題として考えてほしい。あとで、後悔しないためにも。

毎年行なわれている先生方の人事異動で今年は十五名の先生方がこの学校に赴任されて来た。そこで我々新聞部は、早速インタビューをしてみた。

一、担当科目　二、趣味　三、モットー

四、若校生に対する感想。

○大貝一俊先生

一、英語

二、謡曲

三、初心に帰れ

四、授業中の態度は非常にまじめである。この態度をくずさずに、初志を貫徹してほしい。

○村上加代子先生

一、体育

二、陶芸、美術

三、なし

四、前任校が頭髪、服装に厳しかったせいか、そういう面での自由さを感じる。

○木元俊彦先生

一、数学

二、音楽鑑賞、満奏

三、やみが深ければ、深い程、あかつきは近い。

四、皆、真面目です。

○西田潤一郎先生

一、国語

二、遊びごとなら何でも、（但し下手のよこ好き）

三、実践躬行

四、おとなしいか、やる気がない。学習でも運動競技でももっとうちこんでほしい。

○渋田嘉幸先生

一、政治経済

二、将棋、草取り

三、庭球部を団体でインターハイに出すこと。

四、玄海灘から取れてきたように、生き生きとしている。

○柴田正治先生

一、英語

二、小旅行

三、誠実

四、容姿端麗、身体強健、これでもう少し勉強すれば鬼に金棒ですよ。

○石川俊徳先生

一、数学

二、特別にないので、何か若高に変わったのを転気を見つけたいと思います。

三、その時々に全力投球することを信条にしていますが、なかなかうまくいきません。

四、若者らしく発剌として元気がよい。勉学、部活動と高校生活をエンジョイしているように見える。

○田中正明先生

一、英語

二、海釣り

三、何事にも最善をつくすこと。

四、現代的感覚があり、立派だと思う。思ったより勉強不足です。近効の高校生に負けないように勉強してもらいたい。大いにはりきっています。よろしくお願いします。

○柴田英明先生

一、生物

二、スポーツ

三、初心忘るべからず。

四、かっこ良さを追求するあまり、きびしさを忘れているように思う、頑張れ若高生!!

○木村敏宏先生

一、数学

二、スポーツ（球技）音楽（何でも）

三、為せば成る（最善を尽せ）

四、努力することが少ない。よい事でも悪い事でも一生懸命やってほしい。

○野口芳昭先生

一、世界史

二、読書、音楽、草野球

三、全力投球

四、緊張感が足りない。

○中富邦夫先生

一、物理

二、昆虫採集

三、なし

四、六十年の伝統が今も踏まえられ、それが生徒会活動、クラブ活動といったなかに生き生きと感じられます。

○平井清子先生

一、化学

二、音楽鑑賞

三、なし

四、授業中の態度は、まじめ（？）です。

○貞嶋成人先生

一、事務

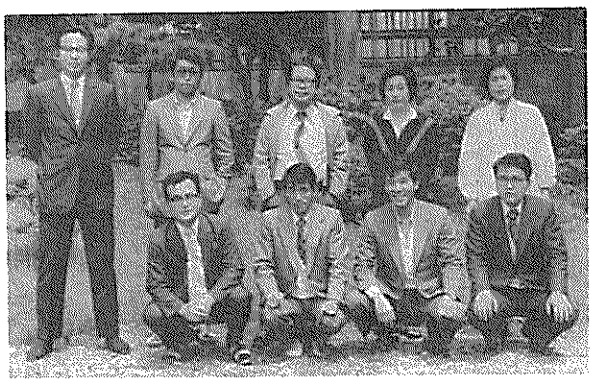
二、絵画鑑賞

三、なし

四、本校定時制から、全日制になりましたが定時制の時は、生徒と接する機会が多かったのですが全日制にかわってからは、機会がほとんどないのではっきりした意見はありません。

返された答えに、色々と抱負や気迫が、感じられた。

平井　木元　村上　石川　西田　田中　木村　柴田　渋田（敬省略）



若高向上に参画

張りきる新先生

クラブの内面を鋭くえぐるクローズアップ、今回は「これがスポーツマン」と自他とも認める排球部をとりあげてみました。

―部員数は？

〃十一人です。内訳は一年が五人、二年も五人、そして三年が六人です〃

―入部の理由は？

〃中学校でやっていたから〃

―クラブの雰囲気は？

〃まじめな人が多いです。しかし一人突発的に理性を失なう人がいます〃

―部のモットーは？

〃先輩は後輩を親身になってかわいがる〃

―入部して得たことは？

〃欠点がふえた。高校生活の意義を感じとった。彼女を得たこと〃

―部の成績は？

〃昨年度は新人戦で優勝しました。今年度は県ベスト4をねらっています。〃

―先輩についての感想は？

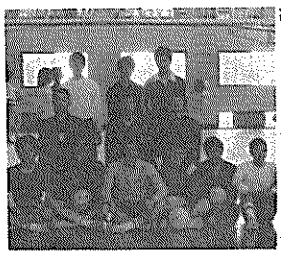
〃あまり強すぎて僕たち困ります。それにやさしすぎます（大きな声では言えませんが）横着な人が多い〃

―後輩への注文は？

〃礼儀正しく慎ましくして欲しい〃

後輩をかわいがる

●バレー部●



チームワーク抜群

―楽しいことは？

〃練習の後の楽しい一時歌謡大会、それとキャンプ（新聞部取材班が知るところではこの歌謡大会は実にすごい代物で高校生としてはとてもこゝに紹介出来ない歌ばかりであるらしい。キャンプの方もおもわず頬がほころぶテントの一時といった感じである。みんなバレー部に入ろう）〃

―いやなことは？

〃先輩のしごきのみ〃

―キャプテンから一言

〃もっと応援にきてください。女性にきてほしい〃

―終わりに部員の切実なる願いを

〃マネージャーに誰かなってください〃

排球部の今後の活躍を期待してこのインタビューを終わります。

他校訪問

桜の中から

目に青葉が眩しい季節となりました。木々を透かした向こうの風物に、心なしか、濃緑のフィルターがかけられたようで、ふと、夏の兆しを感じます。そんな晴れた日（四月三十日）新聞部五名は折尾高校へと出かけました。

そこでは門から校舎まで蛇行した坂がつづき、周囲の桜が坂を埋め、正に花道という感じで我々は意気揚々と坂を登りつめ、失礼にも正面玄関から堂々とはいり相手校の驚いた表情にも笑顔で答え、さっそく質問に取り掛かりました。

学科は三つにわかれていて、家政、商業、事務とあり、進学は家政の三割ぐらいで、大部分の人は主にサービス業や金融関係に就職しているということです。生徒数は千二百名ぐらいで、男女の比率は一対十四で女子がだんぜん多い。そのせいか我々が校舎内にはいったときの第一声が「きれいだなあ。」であった。

さて、問題点はどの質問にひとこと風紀面という答えがかえってきて、やはりどこも同じだなあと感じた。男女交際は、活発だそうだが、もっぱら他校の生徒とのつき合いが多いそうである。この学校では文化祭は、なんと三年に一回というのにおどろいた。そしてバイクはだめだとして自転車での通学も禁止というのに再びおどろかされた。

自慢とするものに、コンピューター教室、LL教室それに礼儀正しいこと、ということで、そう言えば思いあたる点があった。それは新聞部の部室がわからなかったときき、丁寧に教えてもらったことである。

生徒会の活動は、というと今（四月三十日現在）クラブの年間予算をたてる仕事に大忙しということで、すっと頭をかすめたことは、生徒の代表である生徒会長は男子か女子かということである。そこですかさず質問。その質問に「男子です」という答えがかえってきたので何故かほっとした。

クラブ活動では、ソフト部、卓球部、水泳部などが活躍しているそうだ。また、男子のほとんどが運動クラブに入っているそうだ。

我校にないクラブとして、事務機械部、タイプ部、珠算部、食物部があり、食物部というのは、食物の栄養配分などを研究する珍らしい部だ。また、商業実践教室があり、商品などの取引きのしかた、電話や来客の応待の練習などをするとのことだ。

図書館はあいにく見学されなかったがだいたいの大きさは、我校より少し小さめで、蔵書の中にはマンガの本があるというちょっと本校と違った面もあった。

この日は、若松高校と戸畑工業高校の新聞部の訪問が重なり、三校合同のなごやかな雰囲気の中で一時間半余り、話をかわし合った後、折尾高校の新聞部の方に見送られながら、再びこの地へ足を運びたいと思いつつ我々は、帰途についた。

礼儀正しく緑に囲まれた学園

＜折尾高校＞

編集後記

一年生の皆さん、おめでとう、学校にはもう慣れましたか。初めて学校新聞を読んだ感想はどうでしたか。

今号は、新二年生が中心になり、先輩を頼れない時期に接して、我々は必死にやってみました。今年度、またあと三回発行という大きな指命を背負って、不安と期待で頭がいっぱいです。

しかし、可愛い新入部員を得て、がんばらなくっちゃと開き直っております。

今年度も、礫陵新聞をどうぞヨロシク。

毎度有難うございます
小・中・高、教科書、参考書
石松書店
本町銀座　TEL(761)2415

McGREGOR
Troy Bros・・・有名ブランドでバッチリ
MEN'S WEAR
明治町銀天街　ファスト
(761) 4198

豊かな生活
楽しいくらしの
ショッピング
若松のデパート
丸柏
開店10時・閉店6時／木曜定休
TEL代表 (761) 1231